

# 奥深い剪定作業

りんご作りは人作り

## りんご作りから学ぶ

よくりんご作りは人作りとあるが、なぜりんご作りは人作りであるのか、なぜみかんや野菜では聞かれないのか。

なぜなら、りんごは生産者の思想や性格がそのまま影響する果実と言われているからである。

りんごの品質の良し悪しの約7割は剪定で決まると言われており、経営も左右すると言われている事から、剪定した樹が生産者の人格を表わすと言っても過言ではない。

剪定には教科書が無ければ正解もない。自分の経験と、生産者との交流の中で技術や情報を共有し、剪定技術に改良を重ねていく。特に生産者の交流が剪定技術を磨くことに最も近いと言える。

また、生産者の交流の中で

この樹を人間に例えて説明することが良くある。「親父の顔色は樹の顔色」「自分の体調管理は樹の体調管理」といった言葉等を耳にする。

例えば後者であれば、自分の体調を崩してしまうと樹の体調管理をする人が居なくなることから、園主の体調管理は樹の体調管理に直接影響するという事である。

様々な剪定の師匠がいて流派も沢山あるが、「剪定技術が分からなくても、生産者の魂が入っていればいいりんごを採ることが出来る。」と、ふじ育ての親である齊藤昌美氏が話していたという。

## 剪定作業の重要性

現在、生産者は剪定作業の最中である。

剪定が今後の作業の省力や果実の品質、収量に直接かわり、経営にも大きく影響して来るため、思考を凝らしながら作業に取りかかっている。

剪定を行わなくてもりんごは成るが、それは色が赤く縞も入り、味にコクがあり、貯蔵性が優れているなど今のニーズに合ったりんごとは程遠いものになる。

今回は剪定が一番難しいとされているふじを基準に、剪定初心者の私が学んだポイントを簡単に紹介していきたい。



剪定の重要性と奥の深さを知る生産者らは、多くの剪定会などに参加し、様々な剪定技術や剪定の基礎、剪定の考え方を学ぶ。

## 切る枝と残す枝の基本

りんごの樹は暖かくなると根が動き始め、枝が育ち次第に葉が出て、大きささまざまな葉の様子を確認できる。そして徒長枝も出はじめることで、樹内へ日光が入らずに果実の着色不良へと繋がる。

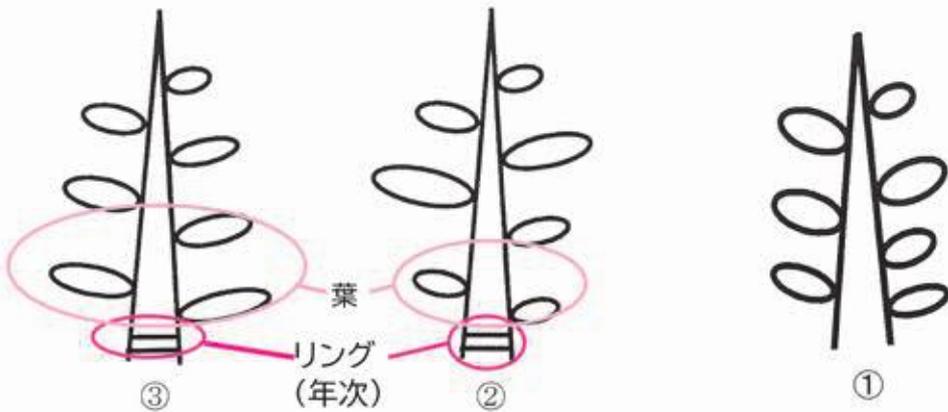
徒長枝を切ることにより、日光の入り等を良くするほか、樹に刺激を与え根を動かし、高品質果実の生産に繋がるという。

葉取作業や除袋作業等の農作業が忙しい中、徒長枝の切り落としを家族や人夫にお願いする場面もあるだろう。

そして、切り終わった後をみると、切るべき枝を残し、残すべき枝を切っている事があると言いつ話を耳にする。

徒長枝と言っても同じりんごの樹から出ている枝であるから、切る枝や切らない枝を判断するところに迷いが生じるのではないか。

そこで何を基準に徒長枝であり、切る枝なのか残す枝なのかを下図を見ながら、簡単にポイントを押さえていきたい。



### ポイント①

株元のリングが無く、枝が太く株元の葉が小さい枝は切るようにする。(徒長枝)

### ポイント②

株元にリングがあっても、元からの葉が小さい枝であれば、切るようにする。

### ポイント③

株元にリングがあり、元からの葉が大きい枝があれば切らずに残すようにする。

上図の②、③は発育枝という葉と芽だけを付けた枝であり、①は過剰に太くなった枝で徒長枝となる。これらのポイントを押さえた上で剪定する時には株元からしっかりと切り落とし、残す枝は一本ずつ残すのではなく群生(津軽弁で株ダ)で残すこともポイントとなる。また、冬季剪定でこのポイントを押さえて剪定するには前年の葉のつき方や、枝のつき方をよく観察しておく必要がある。

上図③の枝は芽を持ち子孫を生み出すという事から「女枝」と言われている。

反対に①の枝のように芽を持たない枝は「男枝」と言われ、②の枝は女枝だが基にある葉が小さい為「女男枝」と言われている。

このように枝一つにしても人に例えることができ、イメージが湧きやすい。生産者はりんご作業を人間とりんごの関係性を考えながら剪定作業を行う方もいるだろう。

このように、枝に限らず果実などを人間に置き換えた言葉が様々な言い伝えられている。



太く伸びた徒長枝

剪定の達人に  
聞いた

剪定する時に一番心掛けていることは??



五所地区

田澤 俊明 さん

若い頃齊藤昌美氏と何度も会ってお話しし、りんご栽培について多くの事を学んだと言う。

剪定するにあたって基盤としてやる事は??

「最低限のことはやる」というのは沢山あり過ぎて一番という事は無いが、強いて言うと果台枝は剪定しないで残しておくという事です。

果台枝は、果台の部分に養分が沢山貯蔵してある為、その枝は充実した生育を見込むことが出来ます。そのため、まず枝を見る時には果台枝を探します。

また、芽の大きさと数も切るか切らないかの判断材料になります。芽が小さいと男りんごになりやすいので、芽が数多くあっても他の芽よりも小さいと剪定することになります。芽の大きさはそこから出る葉の枚数が多いか少ないかも判断する事が出来ます。芽が大きいと葉を10枚ほど確保することが出来る。これらの事は常に意識してください。

剪定はまず葉をより多く確保する事を頭に入れ、そして摘花、摘果作業する時に摘むことになる箇所は剪定し、後の作業を省力化することも頭に入れて剪定していると田澤さんは言う。



剪定の際に判断に重要な果台（猿や兎、鹿などの好物）



同じ枝になった大きさが異なる芽

## 剪定している時に考えていることは何ですか？

「樹を人間に置き換えて考えています。例えば二本の枝が分かれていると、悪い人間かいい人間かという事に置き換えながら剪定しています。悪い人間（枝）というのは芽も抱かずに太く長くなってしまう、もつ一つの良い芽を持った人間に栄養がいかずに悪さをしている為、切り落としています。」

また、手を掛けた子供ほどよく育つというように、樹や枝にも手を掛ければ掛けるほど後に良い果実を実らせることが出来る。

常に樹と会話しながら剪定を行っています。」

今まで自分でやってきた剪定技術のノウハウを生産者で共有し、色々な意見の中で自分の答えを探しながら取り組んでいたが、一緒に学んできた人達は今まででもこれからも自分の宝物であると話した田澤さん。

これからも、この地域のりんご産業を絶やさない為に仲間と勉強し続けていきたいと意気込んで

いた。

最後に、剪定でもどんな作業であつても人が素直で謙虚でなければいいりんご作りは出来ないと話した。

「りんご作りは人作りから、という言葉は人として話を聞ける、感謝できるような人であること等、人間として当たり前な事を出来なければ、良いりんごは作れないことである。それができないと栽培管理も手を抜き、周囲の園地に迷惑をかけたたり、剪定会などの研修に行っても話を聞けず、何年たつてもりんご作りは上手くない。」

生産者は、りんごの樹によつてご飯を食べさせてもらっているという気持ちで、感謝の念を持ちながら農作業に当たることにより良い経営にまで繋がる。」と田澤さんは熱心に語ってくれた。



女性向けの摘花講習会の開催で高品質りんご生産を



剪定会にて多くの生産者が学ぶ姿勢を見せていた

## 編集者の体験から

今回、私自身初めて剪定作業を体験させて頂いた。実際にどこを切るかどうかは園主の方に確認を取りながら作業したが、それでも切る瞬間には「ほんとにこの枝を切り落としてもいいものか。」と、勿体ない気持ちで頭をよぎり、なかなかスムーズに切り進めていく事が出来なかった。

しかし、この枝を一本切らない事で他の何本もの枝に弊害を及ぼすことになるか考え方を变えることで、切り進めていくことが出来た。

私が体験させてもらったことはごく一部の事で、他にも長柄を使つての切り落とし、チェーンソーを使つての太い枝や胴木の切り落としなど他に作業があるが、田澤さんは一本の樹を丁寧に約1時間かけて終わらせると言つた。私が一本の樹を切ると一日はかかりそうなスピードであり、熟練の生産者の剪定技術に肌を通して感じる事ができた。

これからも生産者の「剪定道」に触れながら学んでいきたいと思ひます。